

会議録

(1) 会議名

令和4年度第3回北杜市清里地域活性化委員会

(2) 開催日時

令和4年12月23日（金）午後2時00分～3時07分

(3) 開催場所

北杜市役所 高根総合支所 2階大会議室

(4) 出席者

委員

関係団体を代表する者	浅川	力三
関係団体を代表する者	小野	光一
関係団体を代表する者	三井	健一
関係団体を代表する者	酒井	久欣
清里地域に活動の本拠を有する個人及び法人	武川	尚志
清里地域に活動の本拠を有する個人及び法人	興水	順彦
清里地域に活動の本拠を有する個人及び法人	小林	昭治
清里地域に活動の本拠を有する個人及び法人	五味	愛美
清里地域に活動の本拠を有する個人及び法人	谷口	信
清里地域に活動の本拠を有する個人及び法人	秦	英水子
清里地域に活動の本拠を有する個人及び法人	船木	良
学識経験者	安藤	勝洋
関係行政機関職員	小泉	嘉透
その他市長が必要と認めるもの	中村	洋一
ワーキンググループ		
	三上	浩太

市役所（事務局）

産業観光部長 中山 和彦
観光課長 土屋 直己（司会）
観光課 観光振興担当リーダー 長坂 恵一
観光課 観光振興担当 幡野 祐也
観光地域おこし協力隊 神谷 龍範
まちづくり推進課長 末木 陽一
まちづくり推進課景観指導担当 神近 英一
高根総合支所長 小尾 正人

(5) 議題

- (1) ワーキンググループ進捗報告について
- (2) その他

(6) 公開・非公開の別 公開

(7) 傍聴人の数 0名

(8) 議事の進行経過

1. 開会

2. 委員長あいさつ

(事務局) 本日の会議への傍聴人はいない旨を報告。会議録については、「北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱」第9条により会議の会議録を作成し、同要綱10条により公表する。会議録には会議で指名する者、2名以上の署名が必要であり、議事録署名人を委員の方々から指名。「委員名簿」順で、武川尚志委員と興水順彦委員を指名。

3. 議事

(事務局) 協議会設置要綱第6条に基づき、委員長に議事の進行をお願いする。

(議長) 議事(1) ワーキンググループからの進捗報告について事務局より説明を求める。

(事務局) 資料により進捗状況、スケジュールを説明。詳細内容については、ワーキンググループメンバーを代表し〇〇氏から説明をする。

(WG) 資料を基に報告と説明。①清里の歴史から過去の課題を整理。課題から見える清里、清里が置かれている現状を把握する作業を行った。②具体的な事業・行動を考える前に、誰もが認知しやすい清里の在り方、向かう方向性を示す基準づくりが必要。③基準の具体化、ルール化。清里のデザインの確立(色、形、フォント、イベント、商品、看板、建物など)、共通認識をもってイベント、環境保全、次世代の観光の在り方を整理。④具体的な取り組み・計画については、短期的には、清里がわかるHPや共通認識の為のhow toブックの作成、イベントや起業を応援する制度、支援の仕組みづくり。中長期的には、看板修繕、廃屋撤去、環境整備などが挙げられた。⑤事業をどう進めるのかについては、更に話し合いを続ける仕組みづくりが必要であり、定期的に住民や意思のある人が集まる場を作る。⑥取り組みにより、清里がどう変わっていくのか、結論については、ワーキングでも時間が足りない課題となったが、残り2回で成果としてまとめていきたい。

(議長) 将来に残していきたい清里の姿、事業の具体化等の説明があったが、委員からの意見を求める。

(委員) 印象として、ふわっとしているが、残り2回のワーキングでどこまで詰められるか不安が残るがどうか。ビジョンはわかるが、事業計画を具体化するとすると時間が足りないような気がするが。

(事務局) ワーキングでも各論の議論は出ており、整理付けは出来ている。しかし、ここで書いてしまうと各論だけが印象付けられる計画となってしまうことを危惧しており、このような資料の作り方となっている。

(議長) 提言する計画書に具体化した計画としてどこまで書くのか、例えばリスト化するのか、という議論だと思うが、ワーキングでは個別のプロジェクトのリスト化というよりも、清里で大事にしたい基準が大事な骨格であると共通認識されていると理解している。それと、基準はワーキングで考えていくが、個別のプロジェクトをもっと広く意見を求める必要性について事務局ではどう考えるか。

(事務局) 短期、中長期計画に記載する内容が、実際のアクションとなると思う。次回以降に委員会に示す段階で確認いただきたいが、ここで意見があれば出していただきたいと考えている。

(委員) 短期は来年から取り組むということだと思うが、青写真はどこにあるか、そこもワーキングで決めているのか。

(事務局) あくまで示したものはワーキングからの案である。今年度に委員会から提言をし、短期計画は1年、2年と認識をしている。計画の中身が固まらない段階にあり、予算については議論の方向性を見極めながらと考えている。中長期は、10年の範囲と考えるが、もっと長いスパンなのか若しくはもっと短く考えるべきなのかご意見をいただきたい。

(委員) 清里基準の項目について、内容は検討中との記載があるが、あと2回で出てくるのか。委員会にはいつ示されるのか。基準を確認しなければ、短期も中長期計画にもリンクすることができないと思うが。スケジュールはどう考えているのか。

(事務局) 今の段階では、ワーキングは残り2回としているが、3回開催も考えている。1月中には内容をまとめ、2月には3回目(最終回)の委員会にお諮りし、3月には提言をしたいと考えている。

(委員) 1月のワーキングで検討中の内容がまとまり、次回2月の委員会においては、基準等計画も示されて、委員会が内容を揉んでから提言し、次年度すぐに短期の行動に入っていくということによいか。

(事務局) その通り。

(議長) 別資料15頁を見ると、いま議論をしているルネサンス計画(素案)において「検討中」としている内容(基準等)が記されている。確認いただき、足りない要素や意見があれば、委員から意見を求める。

(委員) 一般的に計画を作成するときは、地域や外部の人からアンケート取って、清里をどう思っているか聞くなど、調査等すると思うが、外からの視点はアンケートなどで取っているか。それともワーキングのメンバーだけの意見を反映したものなのか。

(事務局) アンケートは実施していない。講師として外部の方をワーキングに招致し、清里と他地域との違いについて意見を交わした。補足として、計画ができたとして、現実には計画とは別の意見をもっている方もいると思う。そういった方も参加してもらいながら、清里について話し合う場を作り、継続していくことが必要であるとの結論に至っている。

(議長) その他、意見はあるか。

ワーキング参加メンバーから補足あるか。

(委員 WG) ワーキングの中でどういう視点から意見をまとめているのかという点について、メンバーの構成が生まれも育ちも清里という人、転入してきた人、

そもそも清里に住んでいない人などいろいろな視点から議論されている。基準を考える上で整理の仕方として、「清里がやった方がいいこと、清里がやらない方がいいこと」という視点が基準作りの大きな柱になっている。メンバーも職を持ちながら、かなりの回数、時間を費やし、熱量をもって話し合いが進められていることは伝えたい。

（委員 WG）この委員会、ワーキングは注目をされていると感じている。かなりの時間を割いて、活発な議論を進めてきた。ワーキングの議論の結果が正しいものなのか否なのか、不安な中ではある。委員会においても答えが見える方いるのであれば、また方向性を示されることがあるのであればお聞きしたい。ゴールが見えない中で進めているワーキングである。変わった方がいいのか。変えない方がいいのか。この場の意見、雰囲気も聞きたい。

（委員）資料を見るとポールラッシュと美し森のことに触れられているが、我々も75年前から、美し森を中心にイベントをしてきた。山梨県でも最も古い観光地域づくりだと思う。清里も西と東で地域づくりの過程に違いがあることもあり、地域のコンセンサスは大切であることは伝えたい。あと2回の議論で結論付けてしまうということもないのではないかな。この場の話しを地域に伝えるということも委員としての役目だと思う。キープ協会への期待感は大きいということは付け加えたい。

（委員）なぜ、アンケートの話しをしたかということ、お客様の思うことは大切であるということを知りたい。それを受けて地域の人たちが何を残し、何を行動していくのかだと思う。地域の人考える清里と、観光客が期待することに、そう大きなギャップはないと思うが、それでも、地域と観光客の思いと一緒に清里を作ることは大切だと思う。

（議長）地域のコンセンサスやお客様の意見も取り入れていくということ、話し合いの場を作り、継続していくことで考えていくということであるが、先ほどキープ協会への期待感の話しが出ており、〇〇氏から発言を求める。

（委員）計画に言葉だけを書いているかもしれない。3月に提言書を出すということだけではなく、次年度以降から事業は続いていくことなので、計画で話し合いを続けていくこととなっていることは良いこと。仕組みづくりが大切であり、様々な人を巻き込みながら、事業の中で改善に繋がられる。人の入れ替えも含めPDCAサイクルを回していきながら進めていくことは良いと思う。

（議長）ワーキングメンバーとして、〇〇氏の意見を求める。

（委員 WG）共通認識は大切だが、全員の認識の一致は難しい。何か具体的な行動を提案していかなければ地域は変わっていかない。ボトムアップとトップダウンは逆のことだが、動き出しには説得していくトップダウンも必要な手法だと考える。この委員会で決めていかなければならない。清里にも個人で趣味の延長で面白いこと、楽しいことやっている人はいるが、それは大きな動きにはならない。清里の活性化に繋がるものではない。と言って大きなイベントを一つやっても活性化に即に繋がるものでもない。ワーキングのような小さな集まりが、いくつもできて、多くのイベントをやることの方が人の繋がりが生まれて良い。そこを応援する団体の助けが生まれてくることが、お客さんも巻き込んだ、人のつながりを作り出していくことになり、観光の活性化に繋がると思う。

（議長）話の最後に出来た「応援」などは、ルネサンス計画（案）の中にあるリ

スト化された計画だけでなく、人のつながりを作り出していくための基準であれば良いと考える。他意見はないか。

（委員）一般的な観光地は、行くところ・スポットが決まっていて、行かなければいけないような空気感のところが多い。個人的によく清里を訪れているが、なぜ清里が楽しく、なぜ何度も清里に来るか、何が魅力的なのか考えてみた。清里は、来たその日に行きたいところを決められること。自分で見つけられることの楽しさがあるといった空気感があると感じている。資料の清里基準の原則についてだが、「清里は日本の原風景ではない」や「清里らしい変わりゆく環境の保全と伝承」といった記載がある。変わったこと＝結果が良いのか、変わっていくこと＝変化に価値があるのか。日本の原風景ではないところに様々な価値観が入ってきて、清里らしさができてきたとするのであれば、何を基準としていくのか難しいと思う。開拓者清里は、新しい価値観を変化しながら生み出してきた。「基準」は変わらないことであり、型にはまってしまうような感じがする。その関係性がわかりにくく、基準を作ることの難しさを感じる。

（議長）その点に関し、ワーキングメンバーから意見を求める。

（委員 WG）「変わりゆく環境の保全と伝承」とは、気候変動（温暖化）のこと。ワーキングでは、スイスの観光地で雪が降らないことによる窮状を例に話をした。10年後の冬に清里は今のままでやっていけるのだろうかという視点が背景にある。その上で、変えた方がいいこと、変えない方がいいことで整理をしている。資料の8番にもリンクしているところである。

（委員 WG）ポールラッシュの言葉の、本物でなければいけないという考え方が根っこにあると思う。基準がなんのかと言ったら、それは本物なのか、ここ独自の物なのか判断の中にあると考えている。

（議長）変化することは清里の特徴であり、基準をつくるということを整理づけし伝える必要がある。他意見ないか。

（委員）背骨、根っことなる部分がしっかりとしていることは大切。機構でも、地域の情報をしっかりと体験して発信していくよう努めている。SNSを見るのは若い層である。小さい情報でも光を当てていきたいと考えている。情報をいただければ、機構でも発信に協力していく。

（委員）〇〇氏から先日、街路灯を自分たちの手できれいにしようと話しがあった。自分たちで作っていくこと、地域に根ざした活動が大事だと思う。

（委員）清里基準について、地域へどう周知するのだろうかと思っていたところ、〇〇氏から「全員の認識が一致したらやりましょうではできない。ボトムアップとトップダウンの手法の使い分けは重要である」ということで納得したところ。地元のコンセンサスを、どんな仕掛けで取り付けていくのかは難しいことだと思う。

（議長）ワーキンググループの中でも、同じ話が出ている。同じ方向を向く小さな集合体が集まる中で、住民を巻き込んでいけるのではないかと結論づいている。他に意見あるか。無ければ次へ進む。（2）その他、事務局あるか。

（事務局）特にない。

（議長）他、委員からあるか。

（委員）振興会への報告もある。予算確保も行政では頑張ってもらいたい。

（事務局）議会の承認が必要なことであり、執行内部でも財政担当との折衝をし

ているところ、理解を求めていく。

(委員) わからないことがあるが、先ほどの〇〇氏の話しの中で、何かわからないが清里に来たいと思う「空気感」。そこを知りたい。誘客にはターゲット絞らないとならない。バブルの頃は意図しない形で、雑誌などで取り上げられ作り上げられていった。委員方々は清里の誘客ターゲットについてどう考えているか知りたい。

(委員) ワーキンググループが作った今の成果(資料)があるからこそ、出てきたものに対して議論ができる。まだ、様々なことを絞っていくことは難しい段階だろうと思う。時間的な制約があることは理解するが、結論はまだ出せず、中間報告という形でもいいと思うが。

(事務局) あと2回だが、ワーキングは内容を深め、まとめていく。現状は過程である。ただ、話し合いの場の継続は絶対であると思う。ターゲットについては重要なこと。話し合いの継続の中で、外から清里のイメージを聞いていく。現代は行政でも、例えば「静岡の清水市の10代をターゲットに発信しよう」とSNSでできてしまう時代。戦略的にはいろいろできる。ワーキング中で議論を継続していくことがいいと考えている。

(議長) 議長ではなく、委員としての意見だが、確かに観光のマーケティングは、ターゲットを定めてということは大事なこと。しかし、今やっていることは、従来のマーケティング手法ではなく、新たな基準や新しいことを生み出し、人と人の繋ぎを作ること、そこに新たなターゲットを開拓していくということをしていと思う。

他、意見はあるか

(一同) なし

(議事) 議事を終了する。事務局に進行を返す。

4. 閉会

午後3時7分終了

令和 年 月 日

議事録署名人 _____ 印

議事録署名人 _____ 印